

みどりみらい ぐんじとしのりの議会報告

2002/07/10 Vol. 102 西の原 2-3-6-104 TEL/FAX
45-8362

E-MAIL ID / toshigunji@hotmail.com

印西市議会/平成 14 年第 2 回定例会報告 (3) ～ 学童保育を考える (1)

いつもお世話になっております。印西市議会(6月定例会)は、21日(金曜日)で閉会しました。今回と次回にわたって、「学童保育」に関しての私の考えと、6月議会での私から市への一般質問と市当局の回答を中心にご報告をさせていただきます。

学童保育を知っていますか？

保育園のことは大勢の皆様がご存知だと思います。では、学童保育はどうでしょうか？なぜ学童保育が、児童館ではその役割を果たせないのか？皆様と考えてみたいと思います。

土曜日が学校休みになりました。しかし、反対に、土曜日が勤務になったというご家庭は増えていませんか？今まで働いていなかった奥様方もパートの仕事を求め始めています。

私は、議会で何度か、保育園について一般質問をさせていただきました。保育園は共働き・母子・父子家庭の子どもたちを小学校に入るまで保育する場所です。保育園を卒園して、小学校に入ったあとは？

共働き・母子・父子家庭の子どもたちは、小学校から帰ったあとの放課後や、夏休み、冬休み、そして春休みと長期にわたる学校休業日、また、場合によっては土曜日や日曜日も、子どもだけで過ごす事になります。父母が働いている間、子ども達が安全で充実した生活を送ることができるようにとの願いから、学童保育はつくられてきました。この学童保育を通して、子ども達の放課後と、学校休業日の生活を守り、このことを通して、親の働く権利と家族の生活を守ります。

学童保育事業は、男女協働参画社会が謳われる中、欠くことのできない、以前にもまして、充実が求められる事業であると私は考えています。学校5日制になり、小学校の子ども達の放課後の過ごし方には、家庭のほかにも、全ての子どもを対象とした児童館や学校施設利用の健全育成活動、塾やおけいこ、スポーツ活動への参加など、いろいろとあります。学童保育をわざわざつくらずともという意見もあります。本当にそうでしょうか？

共働き・母子・父子家庭の子ども達には、親が働いていて家庭にいない間、子どものことを受けとめ、一緒に生活する大人の援助と毎日安心して生活できる場所が必要ではありませんか。行ってもいかなくても、いつ帰ってもいいところであれば、一定の時間をそこで過ごす事ができて、継続した毎日(放課後や学校休業日)の生活の場にはなりえません。親たちも子どもがどこで何をしているのかわからなくては、安心して働くことができません。また、体調が悪いときにはゆっくりやすみたいし、つらい事があったときは、自分をうけとめてもらえる大人にそばにいてほしいものです。特にまだ低学年の子どもたちは、一時の留守番とは違い、継続して毎日一定の時間を自分たちだけで生活するには、さまざまな困難があります。事故や怪我、病気などに子どもだけで対処することはできませんし、友達とのトラブルや学校でのさまざまな出来事を自分一人で受けとめるのが難しいこともあります。身の回りのことや生活時間のコントロールをはじめ、自己管理しなければならない問題が日常のなかにはたくさんあります。さらに今日の地域社会は子どもにとって健全な環境であるとは決していえず、むしろ子ども達の健やかな成長を損なうような要因も

増えています。学童保育は絶対に必要で充実が求められる事業だと考えています。

以下、本会議での質疑応答です。

1. 学童保育の充実について

学童保育は、「少子化対策」「仕事と子育ての両立支援対策」からますます必要性が増大している。しかしながら法制化後もまだまだ課題が山積しているのが現状だと考える。

印西市では今後、どのように学童保育の充実を行っていくのか。

(2) 学童保育のニーズを充分把握しているのか

- (あ) どのような形で市民のニーズを把握しているのか
- (い) 現状の運営方式を改める計画はあるのか

(回答/いずれも市長(原文のまま))

<市民のニーズについて>

現在、印西市では学童保育事業の実施を、市内9ヶ所の小学校で該当する児童に対して実施しているところでございます。現在、設置済みの地区についての学童保育のニーズにつきましては、各学童保育運営委員会と市が連絡を密にし、各地域の学童保育のニーズに対応しているところでございます。また、学童保育の未実施の地域につきましては、施設整備の要望等により、その地域に施設を設置する必要性等を考慮するため、アンケートを実施するなど、学童保育のニーズを把握し、事業の実施にむけ、努力をしているところでございます。なお、要望がない地域につきましても、今後アンケート等の実施により、学童保育のニーズの実態把握に努めてまいりたいと考えております。

<現状の運営方式を改める計画>

印西市の学童保育につきましては、施設等は、市で整備し、運営は、地域の実情に応じた子育て支援を推進することから、利用している保護者の方が利用しやすい運営ができるよう、父母等で構成する運営委員会に委託をお願いしているところでございます。このようなことから、運営方式につきましては、公設公営による運営のご要望があることも承知いたしておりますが、運営等に支障がないよう対応に努めてまいりますので、引き続き現在の運営形態でお願いしたいと考えております。

(ぐんじとしのりより)

あまりにも市の考えと各地域の学童保育運営委員会と認識がずれているように感じました。例えば、「ニーズの把握」についてですが、回答では、「緊密な連絡がとれている」ような印象をうけますが、もし連絡がとれているのであれば、「学童保育の充実を求める要望書」(昨年の夏に出されたものです。)に対しても十分な配慮がされ、何項目にものぼる要望項目について、既に何らかの対策がされているはずですが、実際はかけ離れています。例えば、一つが、公設・公営にむけての要望であり、以下のような要望になっています。「学童保育所の公設・公営に向けた検討を開始して下さい。検討においては、これまでの学童保育の成果と長所が生かされ、市民の要望が充分反映できるようにしてください。」

* 既に4年ほど前に、我孫子市では公設民営から公設公営に変わっております。今後、市に対して、引き続き「学童保育についての十分なニーズ把握と早期問題解決」を求めて行きたいと思っております。

いつもご声援、ご支援ありがとうございます。次回も学童保育の問題を中心に6月議会のご報告を中心にご連絡させていただきます。この紙面へのご意見に限らず、市政全般へのご提言、ご批判、皆様からのご相談はいつでも承ります。あるべき市政の姿を求めて皆様と考えていきたいと思っております。よろしくご意見申し上げます。ぐんじとしのり